

「自ら考え、判断する子供の育成」

下関市立川中小学校

① 本校では、考え、議論する道徳科の授業を目指し、道徳的価値の理解を深める発問構成と多面的・多角的に考える板書の工夫に取り組んだ。道徳的諸価値を具体化する教材研究や自己の生き方を見つめる振り返りの観点の設定等により、授業改善に取り組んだ。

- ② 第1学年 ともだちのきもちをおもうころ 「二わのことり」
- 第2学年 ともだちをおもうころ 「モムンとヘーテ」
- 第3学年 広い心で 「わたしだって」
- 第4学年 広い心をもって 「学級新聞作り」
- 第5学年 寛容な心で 「約束」
- 第6学年 正しいと思ったことを 「森川君のうわさ」



③ ア 内容項目や児童の実態に合った学習活動を行うためには、本時で扱う内容項目や道徳的諸価値を明確にした上でねらいを設定し、発問や板書を工夫すること。

イ 全教育活動を通じて行われる道徳教育をより効果的に行うためには、教員においては、互いの見方・考え方を交流し、内容項目や道徳的諸価値についての理解を深めること、児童においては、道徳科の振り返りの観点を生かし、様々な場面において自己の生き方や考え方を見つめることができるようにすること。

「自ら課題と向き合い、主体的に学ぼうとする生徒の育成」

～考え、議論する道徳授業をめざして～

阿武町立阿武中学校

① 本校では、地域の方々と考える道徳授業と、チーム・ティーチングによる道徳授業を柱に据えて「考え、議論する道徳授業」をめざしてきた。地域の方々と考える授業では、生徒のグループ毎に一人ずつ地域の方に参加していただき、話し合いを行った。子どもたちは多様な考え方やものの見方に触れて考えを深めることができた。チーム・ティーチングによる授業では、子どもたちの思考を揺さぶり深めるためにT1、T2による意見の対立を仕組んだり、T1(対話)、T2(記録)という役割分担をして授業に臨んでみたりなど、試行錯誤を繰り返した。

- ② 第1学年 公德心 「島耕作 ある朝の出来事」
- 第2学年 社会の規範を守る 「傘の下」
- 第3学年 法やきまりの意義 「元さんと二通の手紙」



③ ア 全教員が授業を行い、道徳の授業を見せ合うこと。  
イ 道徳の授業準備に十分な時間をかけ、多面的に検討を重ねること。

「考え、議論する道徳」の授業づくり

～「やまぐちっ子の心を育む道徳教育」プロジェクト

2年次推進校の実践～

山口県教育庁義務教育課 令和4年3月

山口県教育委員会では、学習指導要領の趣旨並びに、児童生徒、学校、家庭及び地域等の実態を踏まえ、創意工夫を生かした道徳教育の推進と道徳科の授業についての実践研究を行い、その成果を普及することをねらい、「やまぐちっ子の心を育む道徳教育」プロジェクトを実施しています。

このリーフレットでは、本プロジェクトの2年次推進校(令和2・3年度指定)の実践事例を紹介しています。指導案等の資料は、義務教育課のWebページに掲載していますので、今後の道徳教育の推進と道徳科の授業づくりの参考としてください。

【各学校の実践事例の見方】

「研究主題」 学校名

- ① 研究概要：1年間の取組の概要紹介
- ② 道徳セミナーにおける公開授業
- ③ 2年間の研究を通して、ア 道徳科の授業改善 イ 道徳教育の充実 のために必要と思われるポイント



道徳教育



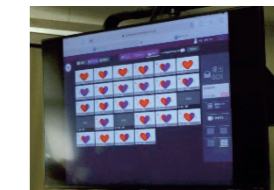
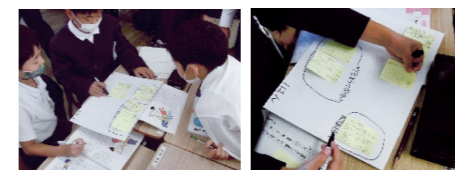
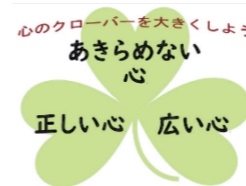
「自ら考え、学び、共に高め合う、コミュニケーション力をもつ子の育成

～道徳科の授業を要とした学校教育全体での道徳教育の充実を通して～

岩国市立岩国小学校

① 本校では、「重点内容項目に沿った教育活動の充実(心のクローバー・別葉の活用)」「授業づくり(3つの視点)」「評価の工夫(児童評価シート・教員相互評価シート)」の3つに重点的に取り組んだ。

- ② 第1学年 だめなことはだめだよ「にんじんばたけで」
- 第3学年 やろうと決めたことは「がんばれ友ちゃん」
- 第5学年 相手の立場もたいせつに「すれちがい」



③ ア 3つの視点(視点1:考える必然性や切実感のある発問 視点2:物事を多面的・多角的に考えるための交流の在り方 視点3:自己の生き方について考えることのできる発問と振り返りの在り方)に沿って授業をつくること。

イ 道徳教育の重点内容項目を教員にも児童にも分かりやすくするために、心のクローバーのような様式を作り掲示し、常に意識して指導するとともに振り返りをさせること。



自立に向けて、共によりよく生きようとする児童の育成  
 ～自己を見つめ、他者と関わり合いながら考えを深める道徳科の授業の工夫～  
 田布施町立城南小学校

- ① 本校では、小規模校のよさを生かし、家庭・地域と連携しながら、道徳教育を推進した。  
 ア 温かい学級や学校の雰囲気づくりを大切に、児童が安心して学校生活を送れるようにした。  
 イ 道徳科の授業を要として、教科・領域・特別活動等、教育活動全体で道徳教育を充実させた。  
 ウ 家庭・地域との連携や交流を深めるために、学校の教育活動に支援と協力を仰いだ。  
 エ 道徳科の授業改善のために、全担任が授業研究を行い、研究協議で成果と課題を確認した。

- ② 第1学年 よいこと悪いことを区別する 「けいじばんのらくがき」  
 第5学年 誠実に明るい心で 「妹のカード」



- ③ ア 教材文を吟味し、ねらいを明確にした上で、道徳的価値について深く考えさせる発問や主体的な学習を促す指導方法を工夫すること。  
 イ 学校と家庭・地域が連携し、地域の特色を生かした体験的な活動や交流活動等を仕組み、道徳科授業との関連付けを図ること。

「主体的・対話的で深い学びをめざした授業の創造  
 ～ユニバーサルデザイン化の視点で、すべての生徒が  
 「わかった」・「できた」と実感できる授業づくり～」  
 山口市立小郡中学校

- ① 本校の道徳科の授業では、小集団学習をベースに中心発問1つを基本とした授業の「型」を生かし、全ての教員が一定のレベルの授業力を確保することと全ての生徒に安定した学習過程を提供することの充実を図った。  
 また、道徳科を含め全ての教科で授業のユニバーサルデザイン化（UD化）を意識した授業づくりに取り組んだ。3本柱（①視覚化②焦点化③共有化）と5つのテクニック（①ひきつける②方向づける③そろえる④むすびつける⑤できた実感させる）により、生徒を学習に引きつけ、主体的な取組を誘い、話し合い活動を活性化させるとともに、深い学びにつなげることができた。



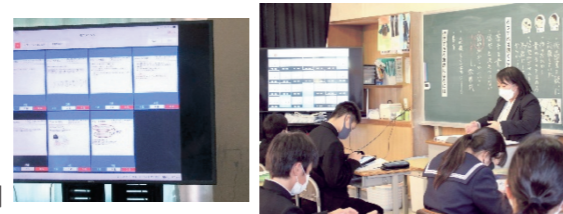
- ② 第1学年 友情、信頼 「親友」  
 第2学年 よりよく生きる喜び 「人って、本当は？」  
 第3学年 命の尊さ 「命の選択」



- ③ ア ユニバーサルデザインを意識して学習指導過程・発問・話し合い活動の工夫を図ること。  
 イ 各教科・領域・学校行事で道徳科の内容項目を意識してカリキュラム・マネジメントを行うこと。

「自他を尊重し、新しい時代で自己実現を目指すたくましい心と思いやりの心の育成」  
 ～多様な展開で心に残る道徳の授業～  
 光市立島田中学校

- ① 本校では、生きる上で出会う問題を自分の力で解決し、よりよく生きようとする資質・能力を育てたいと考え、問題解決学習や体験的な学習を積極的に取り入れることを主な研究課題とした。担任、副担任の区別なく全員で少人数の研究グループを編成し、道徳科の授業を公開することで、多様な指導方法を用いた授業改善に取り組むことができた。共通の授業づくりシートで教材分析を行い、試行錯誤しながらそれぞれの授業のヤマ場にあふさわしい展開を工夫した。また、研究の成果を高めるため、道徳教育の全体計画や道徳科の年間指導計画を見直し、道徳科の授業と特別活動や総合的な学習の時間とのつながりを意図的に仕組んだ。



- ② 第1学年 心から信頼できる友達 「近くにいた友」  
 第2学年 いじめへの公正な態度 「ヨシト」  
 第3学年 本当の友情とは 「違うんだよ、健司」

- ③ ア それぞれの内容項目の発展性や生徒の発達の段階などを理解して指導の観点を正しくとらえ、授業のねらいを達成するために効果的な展開を工夫すること。  
 イ 道徳科の授業を充実させることと並行して、授業で学んだことを活用したり確認したりできるよう、その他の活動につなげる働きかけをすること。



「主体的・対話的で深い学びの実現 ～考え、議論する授業実践による、豊かな人間性の育成～」  
 山陽小野田市立高千帆中学校

- ① 本校では、全ての道徳の授業をローテーション制によるチーム・ティーチングで行った。T1は授業者として授業を計画・実施し、T2は見取者として主に生徒の評価を行った。生徒の見取りを行うことで、学年末評価の蓄積ができた。特に自己表現が得意ではない生徒や、特別な配慮を要する生徒への評価に対して有効であった。さらに、思考ツールやタブレット端末の利用、繰り返し発問に関する職員研究を行うことで、生徒の思考を深化させる授業改善を組織的に行った。

- ② 第1学年 公平とは何か 「公平と不公平」  
 第2学年 わかり合うこと 「コトコの涙」  
 第3学年 相手の気持ちを考える 「言葉の向こうに」



- ③ ア 授業で学んだことが日常生活でも生かせるような道徳的実践力を養う授業づくりをめざすこと。  
 イ 全教育活動を通じて生徒の自己肯定感を高める学習環境づくりに努めること。